

【UD 関西・研究会レポート】 第 14 回研究会

■10月27日(土)、関西学院初等部にて『第14回 授業のUD研究会 in 関西』が開催されました。今回も、130名もの先生方がご参加。関西支部 HP 上の告知 (<http://www.udkansai.net/>) から、わずか二日間で定員に…。「UD 関西」に注目してくださる、たくさんの先生方の熱意に支えられながら、本研究会を続けてこられていることを、改めて感じた次第です。参加されたある若い先生は、「関学(UD)に来ると、早く教室の子どもたちに会いたい! というエネルギーをもらえる」とのご感想を述べてくださいました。ベテランの先生方が、後輩の先生方と一緒に参加してくださる姿も目立ちます。ベテランと若手と一緒に学ぶ輪の、確かな広がりを感じています。



【① 公開授業】

■本研究会の代表、桂聖先生(筑波大学附属小学校)による、1年生の国語授業でした。学習材は『のはらうた』。授業はクイズ形式でスタート。子どもたちはノリノリで参加しています。しかし実は、「擬態語・擬声語」を学ぶための1時間で、子どもたちは楽しみながらどんどん学びの世界に引き込まれていきました。しっかりと、



と、問いに対する答えの根拠を、本文の記述に求める姿が、そこにはあったのです。また、1年生の全ての子どもたちに集中力を持続させる秘訣は、桂先生の「確かな子どものみとり」と「細やかな支援(声かけ)」にあったのです。

【② 研究協議会】

■桂聖先生の授業説明からスタート。桂先生のお話は、『教材にしかけをつくる国語授業10のしかけ』に関するもの。これは、UDの授業づくりを支える、有効な指導方法としてのご提案でした。とても分かりやすいシンプルな整理でした。『10のしかけ』に関するご著書も刊行予定と伺いま



したので、楽しみなところですよ。

■特別に配慮を要する子どもが教室にいたとしたら、桂先生は、「スルー&ピックアップ」を心がける、とおっしゃいました。子どもの不用意な言動を全て取り上げて注意するばかりではなく、「スルー」する勇気も必要。さらに、プラスの活躍として「ピックアップ」できるアンテナも必要であることを学びました。「もしも、クラスの学びが盛り上がっていないとしたら、子どもをあまりほめていないんですよ」というお話も印象的でした。



■この協議会には、“聞き手”としてお二人の先生がご登壇。曾谷敦子先生（猪名川町立白金小学校）は、特別支援教育の視点から、子どもたちが学びに集中できる学習環境についても、事例を交えながら触れてくださりました。上田庸子先生（関西学院初等部）は、「教科教育の視点」と「学級経営（仲間づくり）」の視点から、UDについて話を広げてくれました。

【③ 実践発表】

■発表者は、坂田愛先生（関西学院初等部）。国語授業のユニバーサルデザインに関する実践を発表されました。学習材は1年生の『くちばし』と『みいつけた』。子どもたちが、説明文の構造に着目していく、単元を通した授業づくりの実際を、詳細にお話されました。『くちばし』で培った、国語授業の学びを、『みいつけた』の読み取りに活用していく1年生の様子は、大変興味深いものでした。マイクを通した坂田先生の美声（関西弁）が、ダイニングルームに響きました。

